

【全体概要図】



1 固定資産とは

⇒ 大雑把に固定資産とは、長期間使用する（又は効果の及ぶ）資産をいう。
 ここでいう長期間の目安は、一年間を超えるかどうかを基準に考える。ただ、一口に一年間といっても、使用期間は使い方や使用目的によって変わるため、ある程度画一的な会計処理が求められる。
 結果、固定資産に関する一定のルール（主に税法）が定められており、これに従った会計処理が必要とされる。

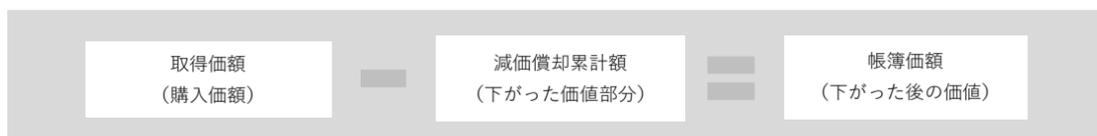
(1) 固定資産の範囲（本資料で取り扱う範囲）

広義に固定資産は、有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産に分類されるが、本資料では、投資その他の資産は対象とせず、有形固定資産及び無形固定資産の説明を行うものとする。

(2) 有形／無形固定資産の会計処理概要

一部を除き、有形固定資産、無形固定資産のほとんどは資産計上を行い、以降、減価償却を通じて費用処理する。そのため、減価償却を通じて、固定資産の価値（貸借対照表計上額）は下がって行くことになる。会計上、固定資産を買ってきたときの金額を取得価額といい、減価償却により価値が下がった部分を減価償却累計額、下がった後の価値を帳簿価額という。

【概要図】



2 固定資産の種類

(1) 有形固定資産

⇒ 大雑把に有形固定資産とは、一年を超えて使用する資産で、現物があり、ある程度金額の大きいものをいう。
 代表的な有形固定資産には以下のようなものがある。

- 土地 … 土地本体。事務所や工場などの底地など。
- 建物 … 建物本体。事務所や工場などの建築物。
- 建物附属設備 … 建物に付随する電気設備や給排水設備など。
- 構築物 … 建物以外の造作物（主に移動出来ないもの）
- 機械及び装置 … 主に工場等で使われる生産設備等の機械など。
- 車両運搬具 … 一般的な自動車、トラックなど。
- 工具器具備品 … 棚、机、パソコン等で幅広い。金型等も含まれる。
- 建設仮勘定 … 建設中（未完成）の支出。最終的に上記勘定等に振り替えられる。

(2) 無形固定資産

⇒ 現物があるものが有形固定資産となるが、現物が存在せずとも長期間効果を得られる資産は存在する。
 具体的には、ソフトウェアやのれん、特許権などの権利関係を想像してもらいたい。

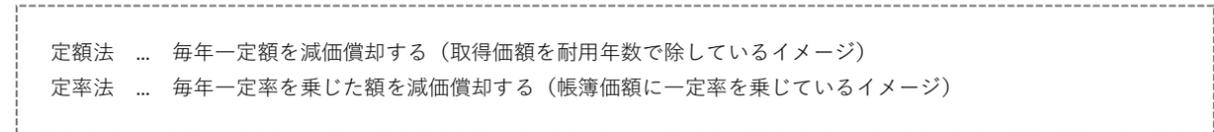
- ソフトウェア … 会計ソフト等のプログラム。購入した物だけでなく自ら開発したものも含む。
- のれん … ノウハウ、ブランド力等、定数化するのは難しいが収益源となるもの。
- 特許権等 … 特許権や実用新案権など。

3 減価償却について

⇒ 有形固定資産、無形固定資産は一部の場合を除き、毎年その一部を費用化し、帳簿上の価値を下げていく。
 これが減価償却である。例えば資産を購入後、使用を通じて価値が落ちていくことを会計上表しているとイメージして欲しい。ちなみに、何年間で償却を行うかを耐用年数という。

(1) 減価償却の方法

減価償却の計算方法で実務上特に重要なのは「定額法」と「定率法」である。
 ほとんどの場合、この二種類の方法で減価償却計算が行われている。



(2) 減価償却の頻度

減価償却は一年に一度行えば足りるが、月次決算や四半期決算を行う場合にはその都度で行う必要がある。
 会社によっては、月次では予算値（予定額）を計上しておき、一定期間で実績値に置き換えるという処理も行われている。